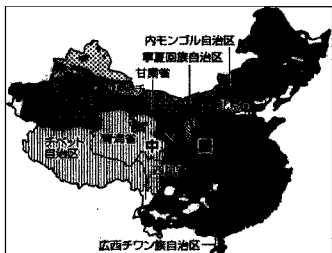


ウイグル問題とは何か

ウルムチ「暴動」の背景

宮脇淳子

二〇〇九年七月五日、中国新疆ウイグル自治区の中心都市ウルムチで、中国政府が言うところの「暴動」が発生した。主要国首脳会議(ラクイラ・サミット)に出席するためイタリアを訪問中だった



漢族と少数民族の主要居住地域(『読売新聞』09/07/10朝刊)

た胡锦涛国家主席が、予定を中止し七月八日に急遽帰国したので、これが中国当局にとつていかに大事件であるかが世界中に知られたり、わが日本国の大新聞やNHKを始めとする大手マスコミも、ようやく「ウイグル問題」を報道するようになった。(略)

初めに、今回の「暴動」の背景について簡単に説明しておく。六月二十六日、広東省の玩具工場で、女性も混じった六百人のウイグル人労働者が、数千人の漢族労働者に集団で襲撃されて、鉄パイプなどで三十数人が惨殺されるという事件が起こった。ところ

が、インターネットにも流れたこの事件がうやむやにされたので、七月五日、ウルムチ市で、ウイグル人学生を中心とする一万人が、事件の真相究明と、中国の法律による犯人逮捕の嘆願のデモ行進を行なった。このとき、最初是中国国旗を持って平和な行進をしていたデモ隊を、反テロ特殊部隊、武装警察、人民警察など六千人が取り囲んで殴りかかり、揉み合いになって、政府側が無差別発砲したのである。

ウイグル人学生のデモ翌日から、中国政府は、被害を受けた漢族の商店などをことさら大きく報道したので、七日には数万規模の漢族住民が抗議行動を起こし、一部が暴徒化してウイグル族が経営する商店を襲った。(略)

どうして広東省にウイグル人労働者がそんなにいるのかというと、中国政府による「民族同化」政策が最近一段と加速し、漢民族をどんどん新疆ウイグル自治区に移住させると同時に、貧しいウイグル人に職を与えるという名目で、若者を強制的に沿海地区に連れて行っているからである。とくに二〇〇六年には、十五〜二十二歳の未婚のウイグル人女性計四十万人を自治区外に労働力として送る五カ年計画が始まり、すでに三十万人は中国各地に強制的に連行された。つまり、ウイグル人同士を結婚させない政策である。(略)

(みやわき・じゅん) 歴史学
 (本文は『環』39号 構成・編集部)